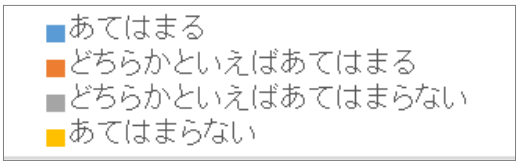
学校教育評価　令和5年度アンケート結果、及び　令和4年度との比較

アンケート実施：令和５年１２月（数字は%）
調査人数：全校人（低学年　114/114 人・高学年　104/128 人）
保護者アンケート児童数配布　回答数　44 人（家庭数戸 128）
教職員 13 人
評価：A（あてはまる）
B（どちらかといえばあてはまる）
C（どちらかといえばあてはまらない）
D（あてはまらない）

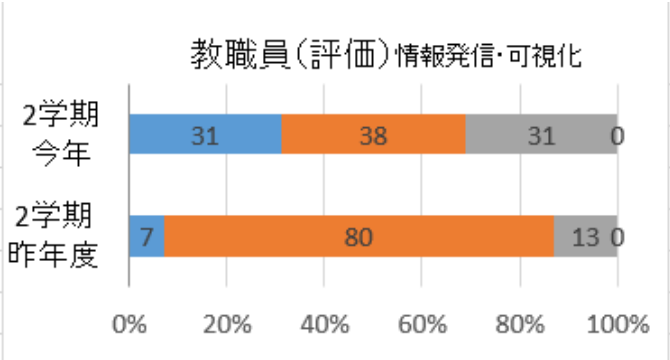


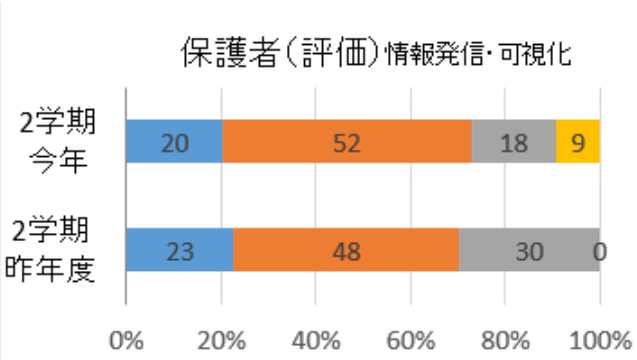
【開かれた学校づくり】

・学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。

教職員　（問１）学校からの家庭や地域への情報発信はよくできている。
保護者　（問１）ホームページやメールなどにより、学校の様子がよくわかる。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A：A+B が９０％以上　B：A+B が７０％以上 C：上記以外	問１	31	38	31	0	C	B
保護者	A：A+B が９０％以上　B：A+B が７０％以上 C：上記以外	問１	20	52	18	9	B	





【記述欄】
●学年ごとに子供達が今何を取り組んでいるのか、何を頑張っているのか、どんな同級生がいるのか知りたいですが、HP だけではわかりにくいです。

【分析・今後の対応】
学校としては多くの業務を抱える中で、ホームページや安心安全メールで情報発信しているが、職員の評価からはまだ足りていない状況がうかがえる。また保護者の回答からは昨年度に引き続き、今以上に多く情報発信してほしいと願っておられる様子もうかがえる。学校行事だけでなく日々の学習や生活の様子を友だちとどのように過ごしているのかが分かるように発信していかなければならない。学校業務の状況から考え、限界はあるが、今年度の情報発信頻度より少し多く情報発信し、保護者の要望に少しでも近づけられるよう検討する。また、お知らせメール等に普段の様子が伝わる画像を添えるなど、子どもたちの姿が伝わる機会を増やしていく。さらに、子どもたちの普段の様子や学習の様子については、毎月予定している学校へ行こう DAY や参観日等で、生の子どもたちの姿からも知っていただきたい。

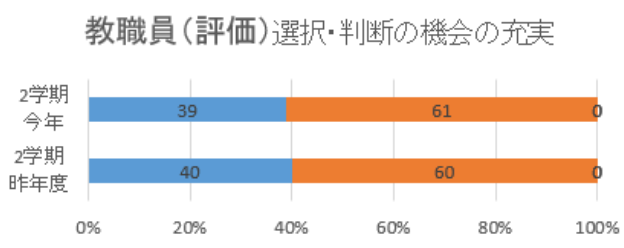
【生活指導】

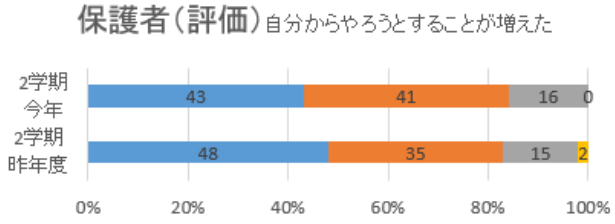
・家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。
・感染について正しく理解し、感染予防に努める子どもを育てる。

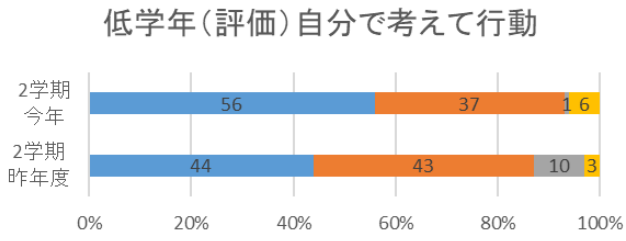
〈自律について〉

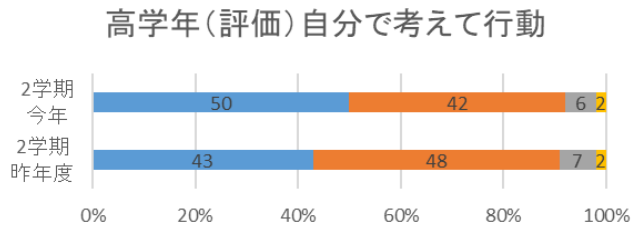
教職員　（問２）児童が判断したり、決めたりする機会を増やしている。
保護者　（問２）家庭でも一人でできることが増えてきた。
児童　（問１）自分で考えて行動している。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A：A+B が９０％以上　B：A+B が６０％以上 C：上記以外	問２	39	61	0	0	A	A
保護者	A：A+B が９０％以上　B：A+B が６０％以上 C：上記以外	問２	43	41	16	0	B	
児童	A：A+B が９０％以上　B：A+B が６０％以上 C：上記以外	問１	53	40	3	4	A	









【記述欄】

記述の回答なし

【分析・今後の対応】

教職員は今年度も自律に向けて意識して取り組めていた。また、自分で考えて行動していると考えている児童は、低学年では「あてはまる」が 12%増えた。そう考える児童も 9 割を超えており、自律を意識した行動が定着しつつある。そう考えていない児童は減少傾向である。高学年については、高水準を維持しており、自律の定着が見られる。

保護者においては、昨年度と同様の数値だった。「全くあてはまらない」についても解消している。これは、学校、家庭、地域において自分で考え行動できていると肯定的にとらえられている。これは、自律に向けた指導の効果が昨年度から見られ、定着しているのではないかと考えられる。引き続き児童の自律心向上のための指導を家庭や地域と連携を図り、本校の教育活動への理解を求めながら積極的に進めていきたい。

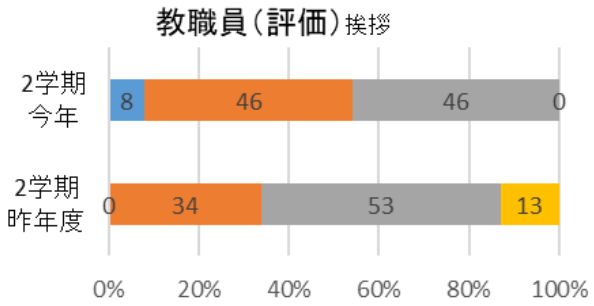
〈挨拶について〉

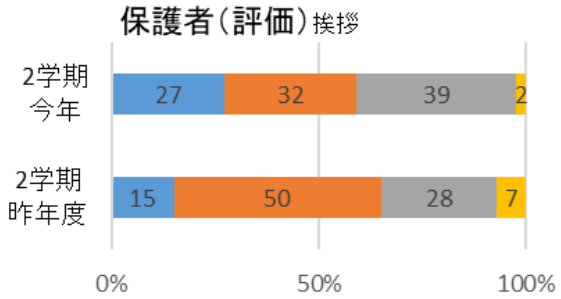
教職員　（問３）子どもたちは、学校で挨拶をしている。

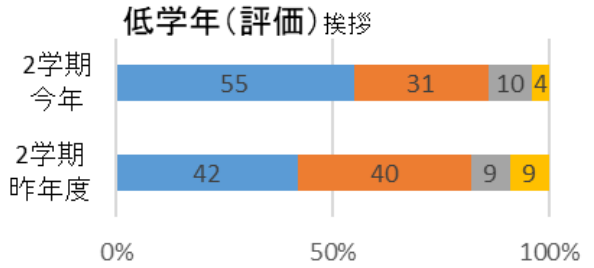
保護者　（問３）家でも、学校でも、地域でも、よく挨拶をしている。

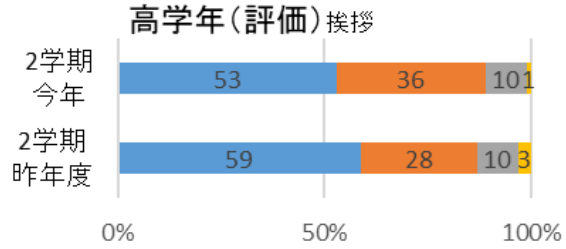
児童　（問２）家でも学校でも地域でも、自分から進んであいさつをしている。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A：A+B が９０％以上　B：A+B が６０％以上 C：上記以外	問３	8	46	46	0	C	C
保護者	A：A+B が９０％以上　B：A+B が６０％以上 C：上記以外	問３	27	32	39	2	C	
児童	A：A+B が９０％以上　B：A+B が６０％以上 C：上記以外	問２	54	34	10	2	B	









【記述欄】

記述の回答なし

【分析・今後の対応】

自分から進んで挨拶をしていると答えた児童は 88%で、微増ではあるが昨年度より 3%増加した。特に、低学年では「あてはまる」が 13%も増えている。「あてはまる」についても向上していることから、意識して挨拶ができている。高学年は、若干減少している部分はあるが、全体的には良くなっている。職員や保護者については「あてはまる」が増加した。

これは、マスクを着用せずに過ごす生活が戻ってきたことと、学校や PTA の挨拶運動等の取り組みが、徐々に結果につながってきたのではないかと考える。ただ、挨拶ができていることについて、教職員では 54%と低く、保護者に至っては、65%から 6%減少している。この数値は児童が家庭や地域で挨拶ができていない実態があると考えられる。学校でも、挨拶をされても無反応なまま通り過ぎていく児童も見られる。来年度は、今まで以上に PTA や児童会とともに挨拶の活性化する取り組みをしていきたい。

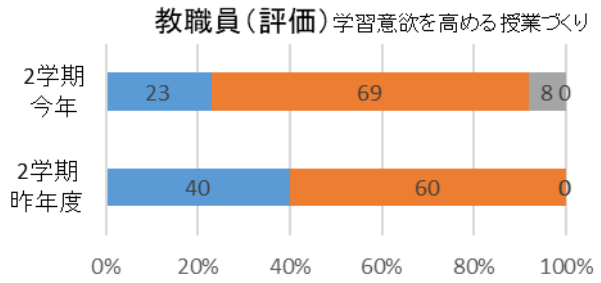
【学習指導】

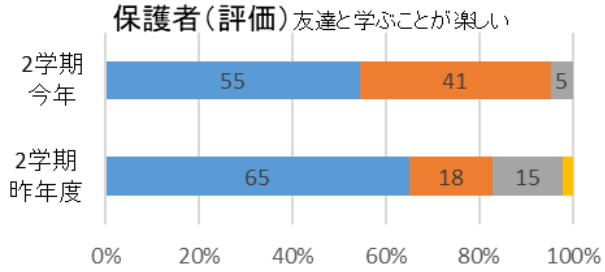
・「聴き合い、対話し、学び合う学び」を通して、「わかった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。
・協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団づくりに努める。

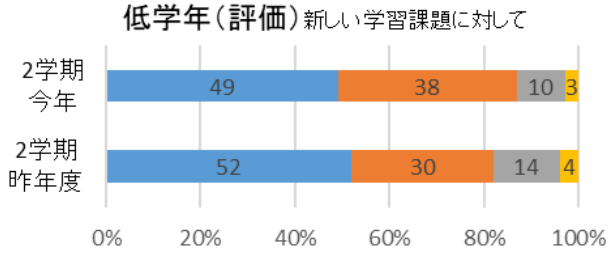
〈学ぶ意欲について〉

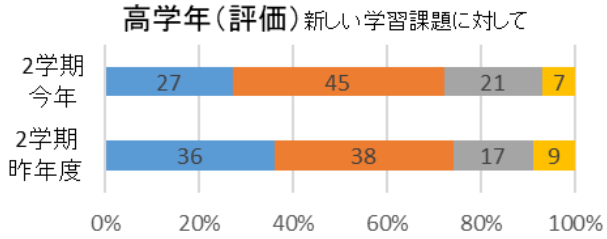
教職員　（項目４）学習意欲を高める授業づくりに努めている。
保護者　（項目４）お子さんは、友だちと学ぶことを楽しんでいる。
児童　（項目３）新しい課題、学習に取り組む時は楽しみだ。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A：A+B が９０％以上　B：A+B が７０％以上 C：上記以外	問４	23	69	8	0	B	B
保護者	A：A+B が９０％以上　B：A+B が７０％以上 C：上記以外	問４	55	41	5	0	A	
児童	A：A+B が９０％以上　B：A+B が７０％以上 C：上記以外	問３	38	42	15	5	B	









【記述欄】
記述の回答なし

【分析・今後の対応】

教職員については、学習意欲を高める授業づくりへの意識が低下している。昨年度の２学期だけでなく、１学期と比べてもＡ評価が減少してＣ評価が増加している。一方で、児童の評価で大きな変化が見られなかったり、保護者の評価で上昇したりしていることから、教職員は学習意欲を高める授業づくりを行っているが、それ以上に行事や生活指導対応の多忙感に意識が向いていると推察される。来年度に向けて研修体制を見直しながら、授業づくりに専念できる環境づくりも大切にしたい。

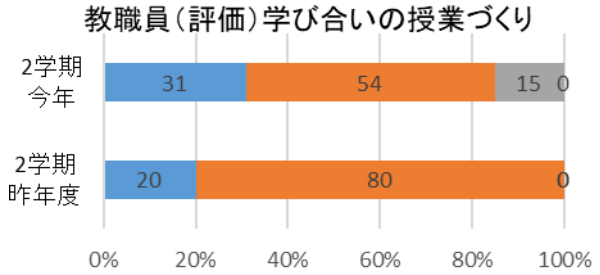
学習意欲を高めるためには、学習課題の工夫は効果的である。しかし、学習課題の工夫は導入部であり、初発的な動機づけに過ぎない。個や集団の実態に教師が寄り添い、目標の達成に向けた形成的な働きかけが重要である。また、授業・家庭学習・朝学習といった学習活動において、つまずきや苦手を学び直す機会を日常的に設けることで自信を持てたり、自身の向上的な変容を自覚できたりするような手立てを検討していきたい。

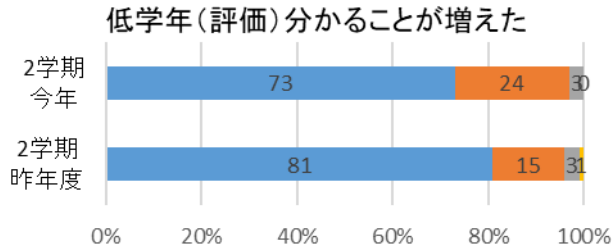
〈分かった・できたの実感について〉

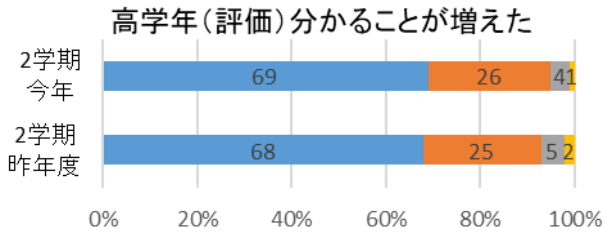
教職員（項目５）友だちの意見を聞いたり、考えを伝えたりと、学び合いの授業づくりをしている。

児童　（項目４）勉強をしていて、少しでも分かることやできることがふえてきた。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A：A+B が９０％以上　B：A+B が７０％以上 C：上記以外	問５	31	54	15	0	**B**	B
児童	A：A+B が９０％以上　B：A+B が７０％以上 C：上記以外	問４	71	25	3	1	**A**	







【記述欄】

記述の回答なし

【分析・今後の対応】

昨年度の２学期と比べて、教職員についてはＡ評価Ｃ評価ともに増加している。１学期と比べても同様の結果がみられることから、学級の実態や個々の取組に応じた差が顕著になりつつある。

児童については、昨年度と比べて大きな変化はみられなかった。「分かった」「できた」と感じられるような振り返りの場をさらに工夫することが必要である。

一方的な知識教授型の授業や機械的なドリル学習では、「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」は達成できない。さまざまな他者との対話的・協働的な学びが重要であることを共有するとともに、学校として具体的な指導の方向性を検討していきたい。

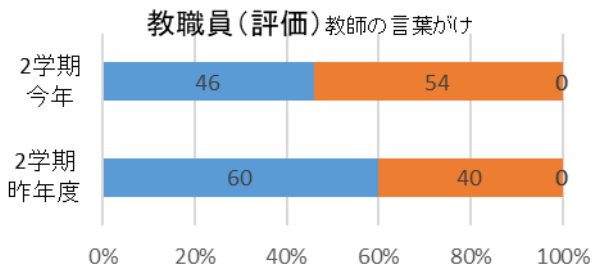
【人権教育】

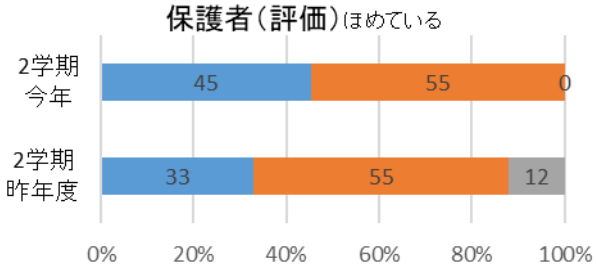
・学校・家庭生活における指導を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を育むように努める。
・児童への心のケアを通して、感染症の影響によるいじめ・差別・偏見等の啓発に努める。

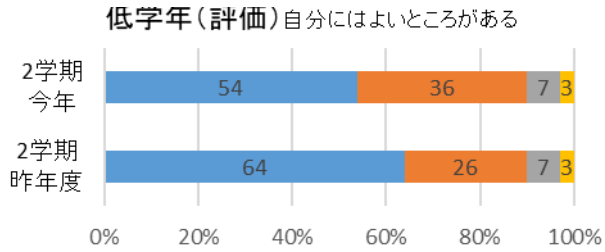
〈自尊感情について〉

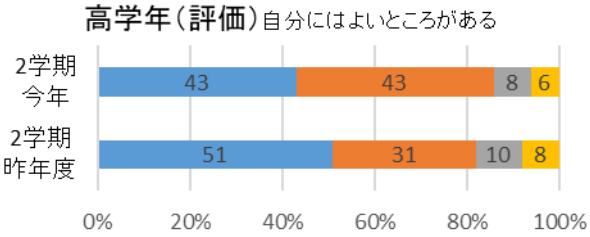
教職員　（項目６）子どもの伸びを認める言葉かけの質の向上に努めている。
保護者　（項目５）お子さんのがんばりやよいところをほめている。
児童　（項目５）自分にはよいところがある。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A：A+B が９０％以上　B：A+B が７０％以上 C：上記以外	問６	46	54	0	0	A	A
保護者	A：A+B が９０％以上　B：A+B が７０％以上 C：上記以外	問５	45	55	0	0	A	
児童	A：A+B が９０％以上　B：A+B が７０％以上 C：上記以外	問５	49	40	7	4	B	









【記述欄】

●まだすぐに諦めようとしてしまう事がありますが、先生方が褒めたり励ましたらしてくださるおかげで、自信がもてるようになってきています。いつもありがとうございます。

●担任の先生が、イラつくか腹立つかみたいな言葉を子供らに言ってたみたいなのでどうなのか、と感じました。

【分析・今後の対応】

全体的に「あてはまる」が減少しているが、昨年に引き続き、「自分にはよいところがある」と感じている児童は多い。教職員、保護者ともに、子どもの伸びや頑張りを認める声かけを日常的に意識し、行うことで高い評価を維持していると思われる。子どもたちについては、学級の終わりの会や掃除の時間の反省を行う中で「今日のいいね」などを見つけて褒め合うことをしているところもある。また、月目標でも「友だちのいいところをみつけよう」や「ありがとうをつたえよう」という目標を設定し、友だち同士の頑張りや支え合いを意識して生活することを続けてきた。そのような継続した取り組みを通して、子ども達の自己肯定感も育っているように感じる。しかし、昨年度と同様１０～１４％の児童は、評価が低い。人と比べて自分を評価するのではなく、今後も子どもたちそれぞれの伸びや成長を細かく言葉にして伝えていくことで、自分の可能性や良さ、伸びを感じられるようにしていきたい。

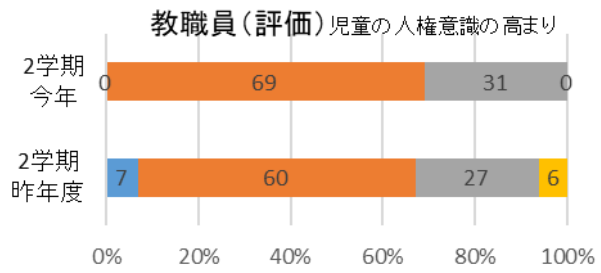
〈人権意識について〉

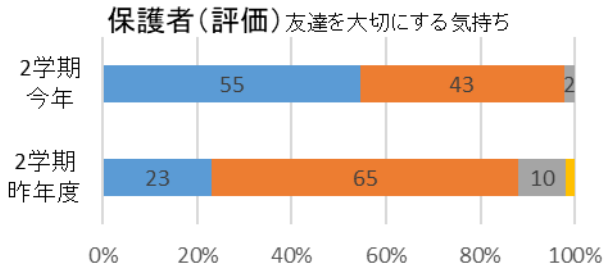
教職員　（項目７）児童の人権感覚や人権意識が育ってきている。

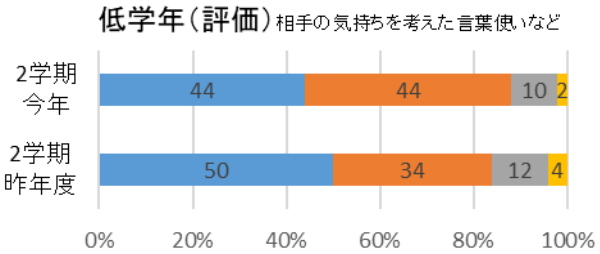
保護者　（項目６）お子さんは、友だちを大切にする気持ちが育ってきている。

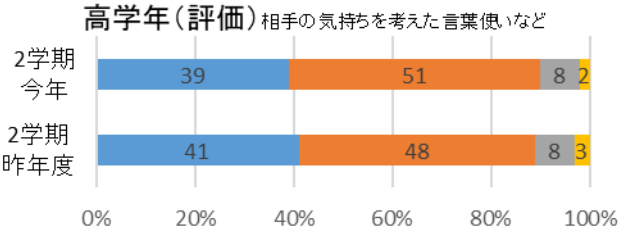
児童　（項目６）相手の気持ちを考えた行動、声かけ、言葉づかいができている。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A：A+B が９０％以上　B：A+B が７０％以上 C：上記以外	問７	0	69	31	0	C	B
保護者	A：A+B が９０％以上　B：A+B が７０％以上 C：上記以外	問６	55	43	2	0	A	
児童	A：A+B が９０％以上　B：A+B が７０％以上 C：上記以外	問６	42	47	9	2	B	









【記述欄】

●学習への理解面では問題ないと思っているのですが、生活面では問題が多いと思っております。自分の世界に集中できるのはいい事だと思いながらも、周りの状況的に今、自分の置かれている状況下でそれに没頭していいのか、その際に声が出てしまっていいのかの判断ができていません。家の中でも、真剣に何かに取り組んでいる人、または寝ている人に自分がその時思いついた話題を待ったナシでしてしまう事が多いです。周りを見るように促すのですが、なかなか難しいようです。学年が上がるにつれ、生きづらさを感じるのではないかと危惧しております。

【分析・今後の対応】

保護者や児童の評価については、高い評価を維持している。特に、保護者の評価については、昨年度の２学期に比べ肯定的な評価が増え、児童も友だちを大切に思う気持ち育ってきている。しかし、自分の気持ちが上手く伝えられず喧嘩になったり、相手の気持ちを想像できず、安易に相手を傷つける言葉を使ったりしてしまう児童も見受けられる。今後も、自分の気持ちを伝える方法や、相手の気持ちに寄り添う気持ちが育つような声かけや指導をしていく。具体的にどのような言葉がよいか、相手はどのような気持ちなのかを考えるような機会を作り、人権感覚や人権意識を育てていきたい。

【複数学年複数担任制】

【記述欄】

記述の回答なし

【分析・今後の対応】

毎日担任団で子ども達の情報共有を行い、家庭との連携を図りながら丁寧な支援体制を取ることができるようにしてきた。また、ホームルーム担任が変わったタイミングで安心・安全メールにてお知らせをするなど、保護者の方の不安を軽減することができるように努めてきた。複数の教員の視点で子ども達の姿を見とることができる点をいかし、良さや課題、様子についての情報共有を行いながら、適切な関わりやフォローができるよう努めてきた。子ども達の自律を促していけるような支援を図れるよう、職員チームとして今後も取り組んでいく。

【その他】

【記述欄】

●登校したくないと言い始めて、約１年が経ちました。今はまだ騙し騙し行ってくれる事が多いものの、行かない日が増えてきました。悩みの中身を聞いていると、親の私も子どもの頃に感じていた気持ちがあり、共感できる部分もあります。私自身は親に気持ちを言えず、我慢の幼少期を過ごした為、親に気持ちを話してくれるだけ居場所があるという事だ！甘える場所がまだある証拠だと思うようにはしております。が、親の私も子どもと同じで、不安で、また孤独な気持ちでいっぱいになってしまっています。安心させてやりたいとは思うものの、親の私までいっぱいいっぱいになってしまい、ちゃんとフォローしてやれているのか、甘えさせてやれているのかと葛藤する日々です。今は休みが多くても、上手な受け止め方、流し方を少しずつでも身につけさせてやれたら…と思って、なるべく学校外の事に目を向けて、いろんな機会を作っているところです。いつか学校にも行きたい！と思ってくれるといいなと思っています。

●マラソン記録会で、今年は順位カードをなくして自己タイムのみとされましたが、それはどうかと思います。何故順位にこだわることがいけないのでしょうか？順位を一つの目標にして頑張る事は自然なことであり、大事なことだと思います。昨今の教育では順位について過敏になっているように思います。勝ったり負けたりして嬉しかったり悔しかったりすることを経験するのは大切な事ではないのでしょうか？そういう思いをする前に、先回りして競争から遠ざけてしまう事がいいことだとは思えません。運動会もそうですが、運動関係に関して勝ち負けをつけさせない事が気にかかります。勉強で輝ける子、運動で輝ける子、それぞれ色んな輝ける場があればいいと思います。

【分析・今後の対応】

児童、学校、家庭と連携しながら支援していくことで、児童の成長にはつながっていると考える。引き続き、児童第一に考え、保護者の悩みに寄り添いながら取り組んでいきたい。

体育的行事のあり方については、意見を踏まえて来年度以降部会や担当で検討していく。